

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

共働実習で大学の学びに気づかせる

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)



前回のニューズレターでは、ビジネスコンテストを実施し17チームが提案を競い合ったとお伝えしましたが、学生の学びはここで終わりではありません。優勝チームの賞品には、その提案を実際に企業へ売り込める機会を用意しておりました。限られた時間で行うため、インターンシップとはいえませんが、これを『共働実習』と名付けてこの春休みに実施しています。この共働実習では、学生が授業での学びが如何に活かせるかを身をもって学んでいます。

『共働実習』の流れ

今回の機会を提供して戴いたのは、旅行・文具品の製造卸売りをを行っている中小企業です(先日、完成したビデオ教材シリーズ5にも登場戴きました)。こちらで学生は以下のような共働実習を行います。

1. 社内商品会議への参加と製造・配送現場の見学
2. 商品会議への(ビジネスコンテストの)提案
3. (商品会議で承認後)卸売先への提案

授業での学び方を実践する

このような流れの職場体験は、多くの大学で行われているかと思いますが、今回、重視しているのは、授業の学び方との連動です。私の授業では、学生にアクティブリスニングを求めています。講師の話には必ずうなづく、メモを取る、質問するです。その学び方の技術を、この商品会議や企業見学する時に実践させています。無反応は相手に失礼ですし、説明する方の意欲を失わせます。「何か質問は？」と問われたら「特にありません」では許さず、どんな簡単なことでも質問をさせます。多くの大学で、インターンシップ前研修が行われていると思いますが、ビジネスマナーとは敬語や挨拶等は当たり前で、このように相手の仕事に敬意を払い、真剣に聴く言動を発揮することだと思っています。

企業も学生から学びとるのが『共働』

さて、この企画を『共働実習』と名付けたのは、学生だけではなく企業(社会人)も一緒に学びましょう、という意図からです。企業がこうした機会から学べるのは、イマドキの若者を教える技術です。この企画を依頼する企業の選定においては、新卒採用を行っていない中堅企業を重視しました。そのような企業では人材採用は転職者が中心になりますので、研修などはなく、まっさらな若者に仕事を教える機会も殆どありません。こうした機会を創出することが共に学ぶ『共働実習』であり、今後も継続していきたいと思っています。

略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

ysuzuki@stage41.comyoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

考えていることを発言することの大切さ

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

いま、卓越したベテラン建設技術者の育成に関する研究会に出ています。建設現場で発生する難しい問題を、まるでルーティンワークのように解決していく技術者を「卓越したベテラン」と呼んでいます。彼らはどのようにして高い能力を身につけたのかを解明することが研究会のテーマです◆ある建設会社の方が「現場所長としての経験が技術者を育てる」とおっしゃっていました。現場所長になると、問題の原因を究明して瞬時に手を打つことが求められます。考えて発言する(指示を出す)ことの連続です。この「発言することの多さが技術者を鍛える」というのです。これは、技術者だけに限りません。学生が考えていることをみんなの前で発言し、それに対する反応をもらってさらに考えることで成長が促進されます。「出す」ことの重要性を感じています。

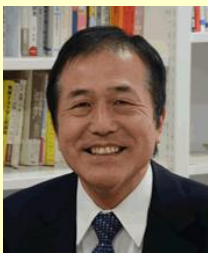


略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

心のタフさは必要！ でも、ちょっと疲れそう(笑)

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

就職活動生となった受講生たちが、時折、近況を報告してくれます。どここの説明会予約がとれない、書類が書けない、説明会后に抜き打ちの筆記試験があり早くも落ちた…などなど。こうした“報告”は、FacebookやTwitterなどでも日常的に見ることができます。そう考えると、今や、誰もが広告者の時代であるとも言えそうです。発信が容易になり、手軽になったぶん、企業に届くクレームも増えたそうです。先日お話をうかがった某メーカーによると、自社のテレビCMに一定の(それも驚く程少ない数!)クレームが来ると直ぐに打ち切りにするそうです。確かに、炎上する前に対処することは一理あるように思います。ただ、その一方で、クレームを出す方も安易に出しているケースがあるように思います。これから社会人となる学生には、情報の真偽や真意を見極める力も必要でしょうが、心のタフさも以前に増して求められているように思います。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

「日々の積み重ね」が結果に！！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

学期末毎に学生の成績を付けていて、毎回感じる事があります。それが「日々の積み重ね」がそのまま結果に出ているということです。期毎に3桁の学生数の採点をしますが、期末試験での一発逆転で良い成績を取る学生というのは見当たりません。毎回の授業に出席し、自分なりの考えをリアクションペーパーにしっかりと書く、その積み重ねが出来た学生が期末試験でも高い点数を得ています。

スポーツで「練習はうそをつかない」という言葉がありますが、学業も全く同じだとつくづく感じます。そしてこの習慣を大学生の間に身に付けるかどうか、就職活動の結果や更に社会人としての生き方を左右します。この現実に触れる度に、自分を甘やかさない強さを持って欲しいと願っています。

◆ 3/22 シンポジウム開催のご案内

3月22日(土)にシンポジウム『大学の学びで「働く力」が伸びている』~法政大学が進める産学連携大学教育改革~を実施いたします。本学で行われている、働く力を育成する関連科目のご紹介と産学連携3D教育プロジェクトの各取組みの説明、パネルディスカッションを行います。ご参加のみなさまには、当プロジェクトで制作いたしました、「働く力を実感させるDVD教材」を差し上げます。

◇ 日時: 2014年3月22日(土) 13:00~16:30 ◇ 会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 3F S307教室

お申込み: お名前・ご勤務先・お電話番号をご明記の上、件名を「シンポジウム申込み」とし、3Dep@ml.hosei.ac.jp までメールにてお申込み下さい。みなさまのご参加をお待ちいたしております。詳しくは当プロジェクトのHP <http://3dep.hosei.ac.jp> でご案内しています。

◆ 編集後記

先日子どもとテレビのクイズ番組を見ていたときの話です。解答者が答えを書いて正解になったとき、子どもが「あの人は漢字の書き順が全然違うのに何で正解なの?」と聞いてきました。「結果が正しいから書き順ぐらいいいんじゃないの?」とごまかしましたが、パソコンで文章を書くことが多くなり、書き順そのものの意味は薄れているかもしれません。では、なぜ今も学校では正しい書き順を学ぶのでしょうか。漢字の書き順には意味があり、漢字の成り立ちが分かるようになっていたり、特に文字をくずして書くときは、正しい書き順で書かないと「読めない」そうです。結果が正しいければプロセスはどうでもいいという考え方もありますが、プロセス自身に意味が隠れている場合もあるということではないでしょうか。「記憶は結果よりも過程に蓄積される」ということですね。就職活動で、たとえ良い結果が出ていなくても、その過程においてみなさんは貴重な経験を蓄積しており、それはきっと将来、何かの役に立つことでしょう。 << 事務局: 平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3Dep.hosei.ac.jp/>